

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 9 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204466		
法人名	医療法人みやうちグループ		
事業所名	グループホーム五日市ひまわり		
所在地	広島市佐伯区五日市駅前1丁目4-31 (電話) 082-943-7210		
自己評価作成日	令和4年7月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204466-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年9月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

季節の行事や趣味活動、一緒に行えるおやつ作りなどの食事イベントや体操やレクリエーション、個人に合わせた作品や全体作品などに取り組んでいます。廿日市野村病院との連携により、早く適切な処置が出来る様にしており、更に週に1回の訪問看護やホームの看護師、介護職員が日頃より全身状態を観察し共有しています。口腔ケアやリハビリは専門職による個別での指示を職員が受け行っております。コロナ禍になり通常での認知症カフェは行えていませんが、オンラインを活用しボランティア参加にて行っています。要介護度1～5までの高齢者様が一緒に生活している中で、一人ひとりに対してケアプランを作成し個人ケアを心掛け支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体医療機関や法人グループとの連携を図っており、他事業所の取り組み状況を参考に運営をしている。特徴的な取り組みとして、第一に、記録の電子化に取り組み、パソコンなど記録の効率化を図っている。第二に、外出日を設けドライブに出掛け、ホームにおいてお花見会など行い四季を感じる取り組みをしている。第三に、食事の充実を図る取り組みとして、行事担当職員が主に立案し、『1m30cmの恵方巻』『手作りお寿司ケーキ』など実施し、手作りケーキとして、『メロンケーキ』『スコープケーキ』など、利用者が好きな食べ物を増やす取り組みをしている。第四に、法人の方針として、働きやすい職場づくりの取り組みから、日頃から職員同士が話しやすい雰囲気づくりを構築し、情報を共有しながらチームケアをモットーに日々支援に取り組んでいる。理念に掲げている、職員の笑顔と、もてなしの心の取り組みを実践している。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念、方針は毎日朝礼後にスタッフ全員で読み上げ唱和を行っている。月々の目標をスタッフでローテーションして設定している。	法人理念の下に、事業所理念と4方針を策定している。毎月目標では、利用者のこと、職員のことの特化した目標を2項目掲げ、朝礼時に唱和し、ケアを実践する上での立ち返るべき原点としている。年2回勉強会、適宜アンケートを実施し、振り返り実践に繋げる取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	佐伯区社会福祉協議会のボランティアとオンラインを通じて歌や紙芝居などでレクリエーションをして交流している。	コロナ禍のため、交流が難しくなっているが、実習生の受け入れ、地域中学校の生徒から花をもらったり、近隣の飲食店から食器をもらい食卓に並べるなど、良いお付き合いができるように継続している。来月は地域の秋祭りの再開に伴い、大人神輿がホーム目の前に来ることとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェをコロナ禍を考慮してオンラインを利用しながら再開し講師の方やレクリエーションなどをオンラインを通じて行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様にも参加して頂きオンラインを利用しながら入居者様のお顔を見て頂いています。活動の写真をシーズンやイベントごとにまとめてお見せすることでホームでのサービス内容を開示している。	現状下では当会議はリモートで継続している。法人グループで話し合い、独自の書式を作成し、分かりやすい記録整備をしている。開催後は、家族に書面報告をしている。勉強会、情報交換、意見交換の場となり、貴重な意見が活かされるよう努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	佐伯区役所の担当者や地域包括センターなどの担当者とは日頃より連絡を取り合っている。	市との連携は、法人本部が主に担っている。そこで得た情報や報告事項があれば、事業所へ周知している。認定調査など福祉課と定期的に協力関係の構築を図っている。認知症カフェなど含め、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターなど日頃から連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い全てのスタッフが研修を受けるようにしている。また何か変わったことや新しいケアを実践する際には身体拘束に当たらないだろうか？とスタッフ間で声を掛け合っている。	運営推進会議で報告、年2回研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人グループ全体での管理者会議で、他事業所の取り組み状況を参考にしている。言葉の拘束にならないようにスピーチロックを含め、言葉遣いには十分気を付けて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	直接的な虐待だけではなく言葉によるもの態度によるものなど幅広く研修にて学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	院内研修などで学習し実践演習として問題を解いて採点し不正解だった点を当該スタッフに伝え誤りをただし繰り返しの学習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約説明の場には、医療法人みやうちより相談員を呼び管理者と同席のもと説明を実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際や3か月ごとのケアプランの説明の際に何かご意見やご要望がないかお聞きしている。	オンライン面会、電話の取次ぎなど柔軟に対応をしている。毎月、本人の写真と担当職員からのコメントを添えた便りを家族へ送付している。年1回、法人本部から家族へ向けてアンケートを実施し、意見を反映している。本人・家族の意向を把握し、出来る限りの要望に対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のスタッフ会議により意見や提案をスタッフ其々から取り入れている。休日のスタッフに関しては書面にて意見を受け付けており全員のシフトに関わらず意見がだせる仕組みを構築している。	毎月のスタッフ会議で、利用者の支援に関わる話し合いが多く、マニュアルの改定を重ねることで支援の充実を図った例がある。管理者と年2回の定期面談に加え、随時、面談を実施している。ベテラン、新人職員に関係なく、いつでも話しやすい環境をつくり、意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度により細かな区分の評価とコメントが貰え勤務における目標や修正点などが明確化されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	充実した項目数の評価項目があり上司が一人ひとり丁寧に評価を行いそれを伝えている。スタッフ其々が成長につながる助言がもらえやすい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人グループの別事業所との交流もあり記録の書き方や行事の様子など情報交換がしやすい環境がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアプランの更新の際には再アセスメントし本人の現在の状態や思いをヒアリングしている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族様の知りたいこと、困っていることなどは丁寧に対応し安心して頂ける関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人の希望やご家族からのお話を傾聴し多様な介護サービスの情報も伝えながらの対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>共同生活を過ごしておられる利用者様の支援者として尊厳の思いを持ち共に支え合う関係を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人をご家族様と共に支え合うことができる様日頃の様子や体調の変化を毎月のお手紙の他常時相談を受け付ける事で関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者様がご家族友人への電話の希望などがあつた際は電話連絡し取り次いだりしコロナ禍でも関係が途切れないように支援に努めている。</p>	<p>ドライブの際に、自宅付近を通り、車内で会話している。利用者の日頃の会話から、実際にお好み焼きを買いに行ったりことがある。電話や年賀状などやり取り、家族や友人との外出やかかりつけ医の受診など馴染みの場所・人との関係継続支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	職員は入居者様の個性を理解しともに関わり支え合いながら生活することができる様支援に努めている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	必要に応じて身近な相談相手位になり支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日常の会話や行動を通じて思いや意向を傾聴して把握に努めている。	担当職員が利用前と日頃から家族へ連絡し、情報を得ている。その後は深く関りをもつことで思いを受け止め、ケース記録で共有している。意思表示が難しい方には、日頃の表情、何気ない仕草から受け止め、何事も本人主体で物事を考え、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	ご本人やご家族から生活歴や生活の様子生活環境の把握に努めている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	出来る能力やしたいことを把握し心身の変化に考慮しながら個人の生活を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人ご家族関係者と日頃より話し合いモニタリングを行うことでご本人の現状にあった介護計画を作成している。	年1～2回の研修を実施している。担当職員と計画作成者が利用者・家族の意向を踏まえ、問題点を挙げるのではなく、『本人にとって楽しいことは何なのか』を大事だと考え意欲に繋がる介護計画を作成している。必要に応じて、理学療法士に相談し、助言を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の行動体調の記録の他個別ノートを作り気づきやご家族からの情報体調の細かな変化を記録し情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況や要望に応じられるように多様なサービスが提供出来るよ努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍のなか地域との交流は減少しているが町内会活動への参加美容院の利用者を通じて暮らしの幅が広がるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医への受診が出来る様に支援し、医療との連携に努めている。	利用開始前に相談し、以前のかかりつけ医を継続できるが、毎月の定期受診や緊急時の事もあり、殆どがホームの協力医を選択している。母体医療機関から週1回訪問看護による健康管理、月1回歯科からの往診や週2回歯科衛生士の訪問もあり、適切な医療が受けられるように対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員の情報の共有を行い、健康管理や医療面での相談、変化に関し早期発見、迅速・適切な対応に取り組んでいる。正確な情報を共有するため、適時、記録の更新を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを最小限にするため利用者様本人への支援に関する情報を医療機関に提供している。また、回復状況等の情報共有を基に、暫定のケアプランを作成し、退院支援に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族のご意向を踏まえ、医師、看護職員、介護職員との連携をとり、対応できるケアについて説明、了承の後、支援を行っている。安心して納得した終末期を迎えられるように随時、意思・意向を確認しながら支援を行っている。	看取りの経験もあり、重度化した場合『看取りについての指針』に準じて、その都度、担当者会議を行い方針を決めている。その後も体調変化毎に家族へ説明をしている。日常的に医療行為が必要な場合は、家族と相談し、協力医療機関への入院も含め検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時・事故発生時の応急処置についてマニュアルを整備し、周知徹底している。初期対応後は、迅速に管理者・医師に連絡をとるように実践されている。また、救急車が到着する間の応急処置・準備すべきことや、急変時・事故発生時の詳細な記録を残し、話し合いの機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、消防署の立会いた避難訓練を年に二度行っている。夜間想定、日勤想定で職員、入居者様の訓練を毎月行っている。災害に備え、食料・電池等の備蓄を定期的に点検している。また、地域の方には災害時援助を呼びかけている。	年2回の避難訓練に加え、水害を想定した訓練として、1階から2階へと垂直避難できる体制を整えている。日頃から火元を出さない工夫として、毎日コンセント、ガスなど点検を実施している。非常時の備蓄として、7日程度の水、食料などを整備している。近隣の商店街との協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	これまでの人生を含めた人格を尊重する姿勢のもと、入居者様の気持ちを汲んだ支援を心掛けている。また、個人情報保護に関する知識を深める機会を設け、最適な支援が選択できるように努めている。	年2回接遇研修を実施している。個人ファイルなど記録物に関しても他者の目に触れないように鍵が掛かる書類棚に整理している。申し送りは、個人が特定されないように配慮している。特に居室に関しては、個人のプライベート空間のため、極力入室しないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	分かりやすい言葉で接し、利用者様の思いや希望を傾聴する姿勢に努めている。選択肢を提案するなどし、利用者様一人ひとりが自己決定できる場面をつくるようにしている。話し合いの機会を設け、マニュアル化されたケアが行われない様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居まで生活歴を踏まえ、利用者様の望む生活スタイルを尊重しています。施設において一日の基本的な流れはあるが、入居者様の体調や思いに配慮し、尊重してするよう心掛けている。ニーズに合わせた個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の好まれる季節の衣類をお持ち頂き自己決定が難しい入居者様には職員と一緒に考え、提案し、気持ちに沿った支援を心掛けている。定期的に訪問美容や地域の美容院で毛染めやカットをして、自分らしさ・おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材や行事食などで、季節を感じてもらい、食事提供後、感想・意見をいただき今後の参考にしている。一工程であっても参加する機会を設けることで、作る喜びを感じて頂いている。庭の畑で野菜と一緒に育て、収穫し、食材として使用している。	利用者の嗜好を取り入れた3食手作りの食事を提供している。畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。月2~3回の季節毎の行事食、『1m30cmの恵方巻、ちらし寿司』など提供し、手作りケーキ、『メロンケーキ、スコップケーキ』など食の充実を図る取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食手作りの食事を提供し献立表に記入し職員間で把握している。一人ひとりに合わせた食事形態、アレルギーに対応した食事を提供している。水分摂取が出来る様好まれる味飲みやすい形態を検討し複数回に分けて介助などの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月4回歯科衛生士の訪問があり義歯の手入れ、歯、口腔内の清掃を行っている。毎食後職員が口腔ケアを行い夜間義歯の方は消毒している。週1回口腔用具の消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを行動やしぐさで確認把握を務めている。トイレで自立した排泄をして頂ける様に近位で見守り声かけし一部介助しながら支援している。	個々の排泄パターンを把握し、定期的な声掛け、誘導にて排泄支援をしている。可動式手すりを設置し、夜間排泄時の転倒防止のための環境整備もしている。業者からの研修を受け、紙オムツやパッドの当て方の工夫をし、安眠へ繋がったケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行っている。日中体操や運動レクなどの働きかけや整腸作用のある水分を提供している。また、便秘傾向の強い方においては医師に相談し整腸剤や下剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	日勤帯で入浴している。バイタルチェックの素ご本人のタイミングに合わせて入浴している。季節に応じて脱衣所の温度に注意し個々の入浴時の確認事項ケア内容手順を職員間で把握し統一した支援をしている。	基本週2～3回であるが、本人の身体状況によっては、希望があれば毎日の入浴も可能である。利用者の体調や入浴習慣に合わせて時間など柔軟に対応している。皮膚トラブルがないか確認し、入浴後は、保湿剤の塗布など個別対応をしている。個々の好みのシャンプー、石鹸など使用している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人の要望や体調に合わせて 休息や臥床をして頂く。日中外 気浴や運動レク体操等に参加し て頂き睡眠リズムの改善に努め ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努め ている。	個々の内服薬の表を作成し看護 師が変更があれば分かりやすく 用法や容量を記入し管理してい る。変更がある時は個人ノート を活用し全職員が共有できる ようしている。服薬時は日付 名前食後とご本人の前で読み 上げ内服を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	食事作りや食器洗いは自らま すくエプロンをしてお手伝いさ れ張り合いを持たれている。千 悪もの畳も積極的に職員に声 かけて下さる。裁縫が上手で ボタン付けや雑巾づくりなどし たり貼り絵を入居者様と一緒に 作成し楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	現在コロナ禍の為外出や家族 様との面会は自粛している。	コロナ禍前では、大型商業施設 など家族と一緒に外出することが 恒例であった。感染状況を踏 まえ、外出日を設けドライブに 出掛けている。利用者の馴染 みの深い地域、自宅周辺近く を通ったり、神社やお花見など 季節毎の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	お金の必要な買い物はご本人 の希望を聞き購入し立替え後 にご家族に請求している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の希望がある時には電話をかけたご家族とお話されている。コロナ禍で面会が出来ない為オンラインも活用している。手紙のやり取りの際はあらかじめ職員がポストへ投函している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者様の席の配置やエアコンが苦手な方は自分が好む場所に座って頂く様配慮している。また季節感を感じられる季節の花や野菜など飾ったり手作りカレンダーや貼り絵などを飾っている。</p>	<p>干支の手作りカレンダーや季節ごとの貼り絵が飾り付けている。身体状況に応じて椅子に座位が取れやすい様にクッションや足台を選定している。リビングから直接出入りできるウッドデッキがある。時にはソファ席で寛げる場所を設け、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>皆で楽しむレクの他趣味の裁縫、ゆっくり出来る様一人用のソファとテーブルを置き一人で集中できる空間をご用意したり個々のペースに合わせた空間づくりをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅に来られた時の使い慣れた物や思い出深い写真等飾ったりご自分の好きな動物のぬいぐるみなどをそばに置かれ居心地の良い工夫をしている。</p>	<p>各居室に手作りカレンダーを飾っている。使い慣れた物、仏壇、冷蔵庫や家族の写真などを持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用開始時に家族の情報を得て、家具やベッドの位置など設置し、その後は本人の生活スタイルに応じて、レイアウトを変更している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>危険のないようテーブルとテーブルの感覚を開け車いすや歩行をされる方が通りやすい様に障害となる物をおかないように心掛けている。居室やトイレ浴室を見てわかるように表示している。</p>		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の経営理念に基づき、事業所の理念と方針を作っている。職員が毎月の目標をたて毎日朝礼時に管理者と職員で読み上げ全員で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の理髪店の利用や、町内清掃に参加し交流を深めている。行事の時、保育園児やボランティアさんも一緒に参加して頂いていたが、今はコロナ禍の為に交流が難しく、保育園児さんよりプレゼントが届いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月1回認知症カフェを開き、地域ボランティアの方、学生の方、近隣の方に訪問して頂く機会を作っている。今はコロナ禍でオンラインで参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的開催し、地域の方や地域の包括の方にも参加して頂き、行事報告や最近の様子などをお伝えしている。今はコロナ禍の為にオンラインや書面で参加して頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所、介護保険課を訪問し、運営推進会議録や、新聞等お渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	コロナ禍の為、オンラインでの研修への参加や、ホーム内で定期的に勉強会を行い、全員で身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的にホーム内で勉強会を開き、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を行い、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の前後、不安や疑問の問い合わせが出来るよう担当者を決めて対応している。契約時は複数人で対応し十分な説明を行い理解納得をされた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護計画説明時にご家族の要望や意見をお伺いし、ケアプランに反映している。また生活向上機能の達成状況や評価を毎月お伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的にスタッフ会議を行って、意見や提案を聞いて改善や解決に繋げていけるようにしている。また半年に1度は管理者と個別に面談を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>半年に1度人事考課を行い、個人目標を立てて成果を確認し反省を行っている。その都度必要な時は個々に時間を設けて話し合いをしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>コロナ禍の為、オンラインでの研修への参加や、月に1回はホーム内で課題を決め勉強会を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内にグループホームが6軒あるが、コロナ禍で交流や交換研修などが難しい状況にある。ホーム長会議を通じて各ホームの取り組み・活動報告を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始前に見学や面談をしっかりと行い、入居決定時には良いケアの為にご家族同意の元、本人様の生活歴や性格や好みの把握などに努めている。担当を決め、本人様・ご家族との信頼関係の構築に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前のヒヤリングはしっかり詳しく行っており、入居後も本人様のご様子や変化など電話連絡にて報告させて頂いている。コロナ禍でなかなか面会も難しい為ご希望やご本人様の為に必要な物などの検討も電話でお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様の日常生活動作や口腔内の状態を見させて頂き、必要な他のサービスに繋げられる様にしている。具体的には歯科衛生士による訪問口腔ケアなどである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が出来る範囲で生活にかかる家事（洗濯物たたみや調理過程の一部など）をお願いし一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の想いをしっかりと汲み取り、ホーム内での本人様の様子や声をお届けし、食べたい物を頼んで持ってきていただいたり、快適に生活する上で必要な物もお願いしてなるべく本人様の希望が叶う様にご家族と共に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でなかなか面会も難しく、本人様の馴染みの場所などにも行く事も叶っていない状況にある。その中でもリモートで面会して頂くなどして関係の繋がりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの性格や相性などを考慮し、席を決めたりしている。トラブルになる前に職員が間に入り円滑な関係性を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後数年経過してもいい関係性を保てており、コロナ禍の前にはホームの行事などにも招待させて頂いていた。地域でお会いした時などにもお互い挨拶出来る様に心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何気ない日常会話などから本人様の希望や想いの把握に努めている。言葉に出されない方や出せない方などは、表情や仕草などをよく観て、本人様の希望に出来るだけ近づく努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際には今までの生活環境を考慮しながら、居室の居心地の良さ・生活のしやすさを心がけて家具などの配置を決めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝行うバイタルチェック（血圧・脈・検温）の際にご本人様の状態を観察し、表情や話し方などからその日の体調を考慮して出来る事を無理なく提供している。いつもの違いなどにも目を配り変化がないか判断している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	職員同士で入居者様の日々の状態を報告し合い意見交換を行っている		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	特記事項は個人ノートに記入し職員間で情報共有している		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	食欲が低下している方に関しては、医師や家族と相談し捕食できる物やお好きなものを持参して頂いたり、ご本人が召し上がられる物を提供している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	季節を感じて頂ける様外出（ドライブ）をあしたり、玄関先やテラスでの外気浴や散歩などをおこなっている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	ご家族の理解を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。特変あれば直ぐにご家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護職員に日比野気づきや処置の仕方など相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時の入院に関しては御家族に早急に連絡をとり可能な限り職員が付き添い医療との連携を取るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りについては主治医からの指示、説明をもとにご家族の希望があれば当ホームで終末期を過ごして頂く。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時は早急に管理者に連絡をとり迅速な対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の飲料水、懐中電灯、電池など決まった場所にわかりやすく収納している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人をかけがえのない存在として大切にに関わり苦痛なく暮らして頂けるよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	小さな意思表示でも見逃すことのないよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員のペースを優先する事なく自由にご自身の思いを大切に日々過ごして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみをすることで気分転換をはかり、明るい気持ちになって頂けるよう支援している。出来るだけご自身で整容してもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を説明したり、季節の食材を取り入れ楽しみある食事になるよう支援している。食事形態も工夫している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>何気ない日常会話などから本人様の希望や想いの把握に努めている。言葉に出されない方や出せない方などは、表情や仕草などをよく観て、本人様の希望に出来るだけ近づく努力をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>月に4回訪問口腔ケアが入っており歯科衛生士の指示の元、1日2回から3回食後に口腔ケアの援助を行っている。口腔内や歯の異常がみられたら提携している近所の歯科医院に連絡して往診を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者様一人一人の排泄パターン、頻度を把握しトイレへご案内、介助を行い、排泄機能の維持に努めている。日中は布パンツで夜間はパット装着や紙パンツ等生活のリズムに合わせた対応、介助をしていくようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動（散歩、体操）と十分に水分を摂って頂くように声かけ、援助をしている。困難な方には主治医に報告、相談し薬剤による排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調（バイタルチェック）や状態を考慮したうえで入浴への声かけを行っている。ご本人の意思をお伺いし、無理強いする事なく気持ち良く入浴して頂くように心がけている。職員間で情報を共有し入浴時の確認事項など整理し把握する。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に個々の趣味や特技を生かす活動やレクリエーションを実施し夜間には気持ちの安定した質の良い睡眠がとれるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬情報をファイルし変更があった時は薬剤情報により全職員に報告、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	過去の生活歴を参考に思考や特技を生かした生活が出来る様に援助している。また外気浴や庭の畑での収穫などで気分転換を進めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その時の季節を感じて頂ける様に外出を年間計画している。興味深い催し物がある時はその都度外出の援助をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様、管理者、職員が話し合っ考えている。入居者様の希望に出来るだけ応じられるように考え支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望により電話を取り次ぐ援助をしている。ハガキや便せんを用意しており、年賀や季節の挨拶をご家族や知人へ発送出来る様に援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が使用される個室には大き目のクローゼットを配置している。洗面台を居室内に設置し共有スペースに出る前に整容出来る使い慣れた小物や家具類を持ち込んで頂くことが可能であり、中には冷蔵庫、テレビ、CDデッキを持ち込みされて他者に気兼ねなく、お好きな時に楽しむ事が出来る空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関先や廊下にベンチを用意しており、環境を変え気の合ったご利用者様で座れるように配慮している。庭にはウッドデッキがあり、季節の花や外の空気に触れつつお茶が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には今まで大切にされていたタンスやテーブル、思い出がある写真や人形などの小物を置いて頂く。ご自分とご家族様が落ち着いて過ごせる居場所として使って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体はバリアフリーの設計がされ、誰もが使いやすいように工夫されている。椅子や手すり、トイレの便器は通常より低い位置に設定されている。残された力が生かされるよう入浴場、脱衣場には手すりを追加している。各居室のネームプレートやトイレなどを分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市ひまわり

作成日 令和4年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出が出来ていない為社会との繋がりが少ない	外出して楽しんで頂く	出来る限り数人ずつでも外出出来る様に計画を立てる	1年間
2	2	地域との交流が出来ていない	町内の行事に参加する	近隣のお店や町内会の方と交流をし認知症の方や認知症の方のご家族が気軽に相談できる様な体制を整えたい	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。